

踏み跡 <My Mountains>

上州(桐生)	鳴神山から吾妻山へ縦走	No.296
--------	-------------	--------

館林に住むT君が企画した落語会が終わった後、館林グランドホテルに宿泊。翌日山歩きをしてから帰ろうという旅は三回目になった。昨年の9月に鳴神山を歩いた時、帰宅後に地図を見ながら「南に長く尾を引く稜線を末端(吾妻山)まで歩いてみたら面白いのでは」と思った。関東山地の山並みが関東平野に吸い込まれる場所を体験できるというのが興味のポイントだった。しかし、この計画を実現させるには問題がひとつあった。

山奥の鳴神山登山口と町に近い吾妻山の下山地点とはかなり離れており、車をデポして歩くには不適だということ。結論として、電車(東武線)を使って出かけることにした。

平成10年11月22日

6時35分起床、天気は快晴。馴染みになった館林グランドホテルを出て館林駅へ。電車の時刻を調べて、駅の横のコンビニで食糧を購入。

7時43分発のりょうもう号で新桐生へ。車窓から日光の山・赤城山・浅間山等の眺めを楽しみながら朝食。新桐生に8時32分に到着。梅田の鳴神山登山口までタクシーを使うことにした。たまにはこういう登山のしかたも悪くない。タクシーの運転ちゃんと世間話をしながら30分で登山口に到着。料金は3,780円、時間は9時ちょうど。大滝山荘で水を入れて、パッキングを再確認し9時12分に出発。

静かで穏やかで、水の潤いを感じる登山道、しかも二度目なので気分的にも楽に歩くことができる。

鳴神山(979.7m) 10時15分。日光の山は男体山・太郎山から白根山まで、上州・上越の山は武尊山・上越国境の山・皇海山方面、赤城山から浅間山方面・・・ちょっと離れて筑波山に至るまで素晴らしい眺め。



日光白根から温泉ヶ岳までの奥日光の稜線は雪で真白だが、太郎山・男体山・女峰山・赤薙山などの表尾根は未だ秋の色。

昼食にはまだ少し早いので快晴の青空の下に広がる展望をひたすら楽しんでいたら、段々に人が増えて

煩くなってきたので10時50分に移動開始。(上写真：鳴神山からの眺め 右=日光 中央=皇海山方面) 花台沢の頭(811.8m) 11時33分。日だまりを選んで昼食と毎度おなじみの昼寝。12時50分に出発して更に南へ。

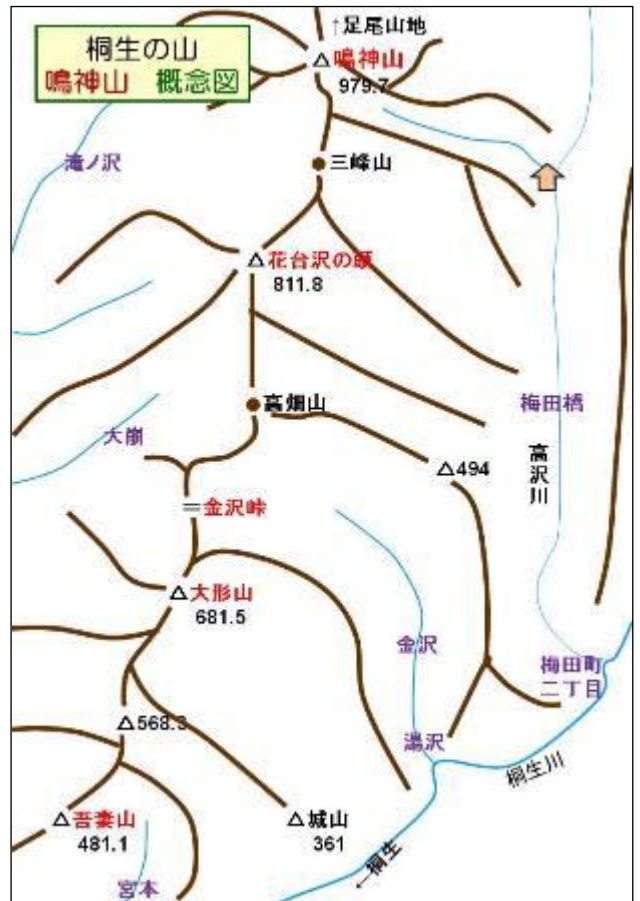
金沢峠(海拔550m位か?) 13時21分。今回はここから湯沢へ下山したが、今日はもっと南へ縦走。稜線の広葉樹が落とした枯れ葉を蹴散らし、その音を楽しみながら歩くのはとても気持ちが良い。

大形山(681.5m) 13時39分、西方寺沢の頭(568.3m) 14時10分。ここまで来たら日が陰りはじめて寒くなってきた。

吾妻山(481.1m) 15時ちょうど。桐生の町を存分に見下ろすことができる。関東山地の末端が関東平野という名前に変わる地点が分かるような見事な展望。稜線はここから南西に向かって緩やかに高度を下げた渡良瀬川に落ちるが、時間的な問題もあるので南東方向の宮本町に下ることにする。

宮本町に下山してしばらく町中を歩きながら、駅に向かうバス路線はないかときよろきよろ。

本町まで来たら空車のタクシーがいたので捕まえて新桐生駅まで。(980円)



踏 み 跡 <My Mountains>

新桐生駅の時計は16時10分を差していた。駅の時刻表を見たら、りょうもう号が16時39分発なので、缶ビールを買ってプラットホームへと急いだ。待ち時間が少なく効率の良い帰路となり、夕暮れの車窓をつまみに缶ビールを楽しんだ後は少々惰眠をむさぼり、終点の浅草には18時30頃に到着。

贅沢癖がついたらしく、京成成田線に乗り青砥からイブニングライナーを使って八千代台までまたひと眠り。
以上